

保 健 体 育 科 学 習 指 導 案

対 象 中学校 第2学年1組 30名（男子14名、女子16名）

会 場 体育館

1. 単元名 球技 「ゴール型」 バスケットボール

2. 運動の特性

（1）一般的な特性（機能的特性、構造的特性、効果的特性）

○機能的特性 ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。バスケットボールは、パスやドリブル、シュートなどを駆使し、集団的な技能や戦術などを競い合うことや作戦を立てて勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

○構造的特性 ドリブルやパス、シュートなどの個人的技能と、チーム内で協力し合って攻撃や防御を行うなどの集団的な技能からなる運動である。ドリブルやパス、シュートなどのボールコントロールやボディーコントロールなどの個人的技能や、攻撃の際にゴール前の空いている場所に走り込み得点しやすい空間を作りだすなどの集団的な技能からなる運動である。

○効果的特性 2 チームの選手が入り乱れ、ときには身体接触をとめないながらゲームを展開するので、ボールコントロールすることはもちろん、相手や味方の動きを把握し、それらに対応した素早い身のこなしが必要となるため、巧緻性、敏捷性、スピード、全身持久力を高めることのできる運動である。上記に加えバスケットボールでは、攻撃の際、ゴール前の空いている場所に走り込む動きやフォーメーションなどによる空間を作りだす動きが重要となるため、ゲーム展開を予測する判断力を養うことのできる運動である。

（2）生徒からみた特性

ドリブル、パス、シュートなどのボール操作が調子よくできるようになったときや、ゲーム中に、チームに貢献できたとき、うれしいと感じる。しかし、ボール操作がうまくできない者には必然的にパスが回ってこなくなり、ゲームがおもしろくないと感じてしまう。バスケットボールでは、ゲーム中に自分の役割を果たすことができ、さらにシュートを決めることができたときに、うれしいと感じる。しかし、練習でボール操作がある程度習得できても、ゲームの中では瞬間的な状況判断からのボール操作が要求されるので、練習ほどうまくボール操作ができず、技能の習得につまずきを感じやすい。

3. 生徒の実態

全体的に元気な生徒が多く運動が得意な生徒が多いと感じる。また、生徒は与えられた課題に対して前向きに取り組むことができ、多く授業も楽しい雰囲気が進めることができる。しかし、指示が出るまで動けない場面が多々見られるので、生徒が理解しやすいように具体的な指示を出すことを心掛ける。また、人間関係が固定化されていて、仲間との関わりの部分にはまだ課題がある為、授業内にグループ活動を多くとり入れていくよう心がけていく。そして、運動を楽しみと思えるような授業が行えるように肯

定的な言葉がけを意識していく必要があるように感じる。

4. 教師の指導観

バスケットボールでは、「ボール操作」や「ボールを持たないときの動き」などの基本的な技能を身に付けさせ、その技能を活用しながら単元のまとめであるゲーム形式につなげられるよう指導していきたい。そのために、基本的な技能の中でも「ボール操作」に重点を置いて指導していく。ドリブルやパスは力強く行うことで安定すること、シュートモーションをスムーズに行うには正しい姿勢があることなどそれぞれの技能にはポイントがあることを習得させたいと考えている。

中学校段階で行う球技の学習は個人差が大きく、技能の高い生徒が中心となり、学習やゲームを行う傾向がある。その為、そうでない生徒が学習に対して苦手意識を抱きやすくなってしまうたり、球技本来の楽しさを感じることができない状況が生まれてしまう。そこで、誰もがバスケットボールの楽しさを感じられるような単元を計画していこうと考えた。2人組や、3人組のペアでの学習を多く取り入れたり、単元の最後にはトーナメント形式でゲームを行い、バスケットボール本来の楽しさを学ぶことができるように指導していきたい。

5. 指導と評価の計画

単元 の 目 標	知識及び技能		次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。							
	思考力・判断力・ 表現力等		攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。							
	学びに向かう力・ 人間性等		球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。							
	時	1	2	3	4	5	6	7	8	
学 習 の 流 れ	0	号令／体調の確認／本時の授業の確認／準備運動								
	10	オリエンテーション	ドリブル練習	復習 前回の	ドリブル・パス練習					
	20			パス練習	練習 シュート	(2対1・3対2) 対人練習	(3対3) 対人練習	ゲーム (トーナメント形式)	ゲーム (トーナメント形式)	
	30			ボール慣れ	ミニゲーム					ゲーム ミニ
	40									
50	学習カードの記入／体調の確認／講評／号令									
評 価 機 会		1	2	3	4	5	6	7	8	
	知				②		①	③		
	技					③	①		②	
	思		①	①		②				
	態	①						①	②	
単元 の 評 価 規 準	知	① 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることを言ったり書きだしたりしている。 ② 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを言ったり書きだしたりしている。 ③ 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることを言ったり書きだしたりしている。								
	技	① 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ② パスやドリブルなどでボールをキープすることができる ③ ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。								
	思	① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ② 仲間と話し合う場で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。								
	態	① 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ② マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。								

6. 本時の学習と指導 (3/8 時)

(1) 本時の目標

パスのポイントとコツを理解しよう

(2) 準備

ボール (17), タイマー,

運動が苦手な生徒に対する配慮

飛んでくるボールに対して, 必ず両手を顔の前で構えることを意識させる。



○【パスのキャッチ!】【真っ直ぐで速いチェストパスを出すためのコツについて解説】(toyop-lab.jp)活用

(3) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点 (○指導、◆評価規準)
はじめ 8 分	① 号令 ② 隣のペアと体調を確認 ③ 1 班から体調に問題のある人は, 報告をする ④ 今日の目標, 活動内容の確認, プリントの記入 ⑤ 体育館 2 周 ⑥ 準備運動, 補強運動	○学習カードをもって座らせる。 ○体育係に号令をお願いする。 ○全員の顔をしっかりと見る。 ○症状や, 怪我の状態を含めて名簿に記入をする。 ○今日の達成目標と, 今日の大まかな流れを伝える。 ○生徒の顔がしっかりと上がってから説明を行う。 ○走っている様子や顔色を見て, 必要であれば声を掛ける。 ○本時の授業の内容を説明し, 準備運動はしっかりと行うように促す。
なか 34 分	⑦ 前回の授業の復習 ストレートドリブル <左右各 30 秒> 高低差ドリブル<左右各 30 秒> クロスオーバー<20 秒> インサイドアウト<20 秒> 各インターバル<10 秒> ⑧ パスのコツ, キャッチのコツの説明	○2 人組でボール 1 つ準備させる。 ○前を向いてドリブルを行うように指示を行う。 ○パートナーは指で数字を出すよう指示を出す。 ○相手はパートナーが出した数字を答えるように指示を出す。 ○動画が見える位置に移動させる。 ○【パスのキャッチ!】 (toyop-lab.jp) より 約 5 分まで

	<p>⑨キャッチの練習 （各 20 秒）</p> <p>U の字でキャッチ</p> <p>V の字でキャッチ</p> <p>低い位置でキャッチ</p> <p>⑩パスの練習 （各 20 秒 2 セット）</p> <p>チェストパス</p> <p>バウンドパス</p> <p>ワンハンドパス</p> <p>○ミニゲーム</p> <p>4 人組で鳥かご （30 秒間）</p>	<p>【真っ直ぐで速いチェストパスを出すためのコツについて解説】</p> <p>(toyop-lab.jp) より 約 3 分 30 秒</p> <p>○パスの種類の説明をする。</p> <p>（チェストパス，バウンドパス，ワンハンドパス）</p> <p>○1 人 1 つボールの準備させる。</p> <p>○動画内の説明、コツを意識させるように声を掛ける。</p> <p>○2 人組を作る。</p> <p>○動画内の説明，コツを意識させるように声を掛ける。</p> <p>○強いパスを出せるように足のステップ，体重移動を意識させる。</p> <p>○1 セット終了時にペアでアドバイスを伝えあうように指示を出す。</p> <p>○必要に応じて動画を見返してもよいことを伝える。</p> <p>◆ 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。（思 1）</p> <p>＜A 評価とするポイント＞</p> <p>提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを具体的に伝えている。</p> <p>＜努力を要する人の手立て＞</p> <p>再度動画を確認して，ポイントやコツを理解させてから仲間に出来栄を伝える。</p> <p>○上手なペアを生徒の前でお手本を見せる。</p> <p>○2 セット目は，相手から伝えてもらったアドバイスも意識するよう声を掛ける</p> <p>○4 人組を作る。</p> <p>○DF 役の人にとられないようにさせる。</p> <p>○パスのポイント、足のステップ，パスの強さなどを意識させるような声掛けを行う。</p>
おわり	⑪整列	○初めの隊形に集合させる。

8 分	<p>⑫学習カードに振り返りを行う</p> <p>⑬講評</p> <p>⑭隣のペアと体調の確認</p> <p>⑮号令</p>	<p>○学習カードに今日の振り返りを学習カードに記入させる。</p> <p>○学習カードを書き終えた人は分かりやすいように筆記用具を置いて，座らせる。</p> <p>○今日の授業を見ての評価を伝える。</p> <p>○次の授業の内容の説明を行う。</p> <p>○生徒の顔色の確認する。</p> <p>○体育係を前に来させて，号令させる。</p>
-----	--	---

学習カード

年 組 名前

日付	めあて	自己評価	K・T・P	コメント
		A・B・C	K・T・P	
		A・B・C	K・T・P	
		A・B・C	K・T・P	
		A・B・C	K・T・P	
		A・B・C	K・T・P	
		A・B・C	K・T・P	
		A・B・C	K・T・P	
		A・B・C	K・T・P	

※ABC 評価の行い方→毎時間のめあてに対しての自己評価

A…よくできた B…ふつう C…できなかった

※KTP とは？

K…keep 今後も続けていきたいこと T…try 今後挑戦したいこと P…problem 困ったこと、問題点の3観点でコメントを書いてみよう！

メモ

○ホワイトボード （電子黒板）

めあて

パスのポイントとコツを理解しよう！

①準備体操

②ドリブル練習（2人組）

③パスのポイントとコツ

④キャッチの練習

⑤パス練習

⑥鳥かご（4人組）

⑦片付け・学習カード記入

授業のルール

- ・パスを出す時は必ず名前を呼ぶ！
- ・ボールが違う方向へ飛んだら、声をだす！
- ・ボールを床に置いたままにしない！

